



欄間(部分)：徳永 政男

熊本県伝統工芸館 収蔵品展

木の工芸展

2019年2月26日(火)～4月7日(日)

熊本県伝統工芸館 2階企画・常設展示室

- 入場料：一般210円(140円)、大学生130円(100円)、高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金
- 開館時間：午前9時～午後5時 ● 休館日：月曜日(祝日または休日の場合、翌日が休館日になります)
- 主催：一般財団法人熊本県伝統工芸館

樽丸椅子製作工程：御手洗 猪一郎



熊本県伝統工芸館
収蔵品展

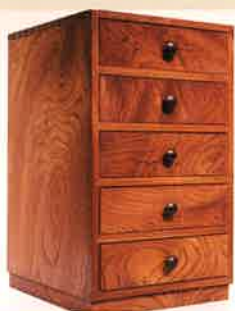
木の
工芸展

熊本県伝統工芸館では1982(昭和57)年の開館以来、くらしの工芸館として生活に根差した工芸品の収集・保存を行ってきました。今回は館の収蔵品の中から「木の工芸品」をテーマに展覧会を開催いたします。

木は山で育ち、作り手の手で道具に生み出され、使い手の手でまた育てられます。素材の特性を生かし様々な工夫をされた道具は、使われてゆくごとに艶や輝きを増し、くらしに彩をもたらしします。熊本県では豊かな森林資源をもとに、人吉球磨地方の家具や挽物・指物、川尻の桶などが作られてきました。多様な木の特性を見抜き、加工することによって先人たちは多くの道具を生み出し、それは職人の技とともに現代に受け継がれています。

本展ではくらしの中に息づいてきた木の工芸品をその製作工程とともに展示いたします。

いろいろな木工品



さしもの
指物

素材をものさしで正確に計り、各部を組み合わせて一つの作品を作り上げます。人吉地方の家具は一枚板を使い、金釘を使わず木を組んで作られています。

ひきもの
挽物

轆轤ろくろを使って材料を回転させ、それに刃物を当て削り出して形をつくります。椀や盆などを多数つくるのに適しています。



まげもの
曲物

ヒノキひのきや杉など針葉樹の薄い板材を熱湯などによって柔らかくし、丸く曲げて器の側面などに利用する木工品。桜の皮を紐状にしたもので綴りあわせませす。

くりもの
刳物

彫刻刀やノミなどを使って木の内側、外側を削り出して形を作っていきます。

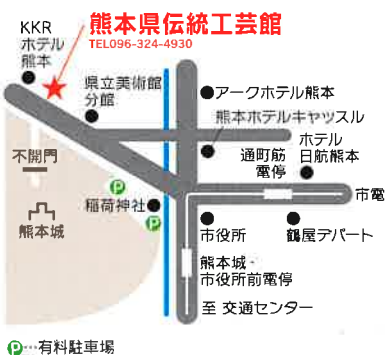


ひのきひのき たる
桶・樽

ヒノキひのきや杉、榎せむらの木片をカンナで削り、削った木片を竹や金属の輪で組み合わせ、接着剤を塗り乾かして作ります。

らん まちょうこく
欄間彫刻

ノミや彫刻刀を使って文様を彫りあげていきます。厚い板を立体的に仕上げる「厚彫り(籠彫り)」などの技法があります。



一般財団法人

熊本県伝統工芸館

Kumamoto Prefectural Traditional Crafts Center

〒860-0001 熊本市中央区千葉城町3-35
TEL096-324-4930 FAX096-324-4942
HP <http://kumamoto-kougeikan.jp>

- 交通アクセス/バスで「市役所前」下車、市電で「熊本城・市役所前」下車、徒歩5分
 - 熊本城周遊バス「KKRホテル熊本前」下車
- ※駐車場が狭いので、公共交通機関をご利用ください。

次回企画展のご案内

「第36回日本伝統漆芸展」

2019年4月23日(火)
～6月2日(日)

全国から公募・審査された日本最高峰の漆芸作品が一堂に並びます。